※イラストの指文字は相手から見た形です。

手話を覚えてみよう vol.33

○筑波技術大学

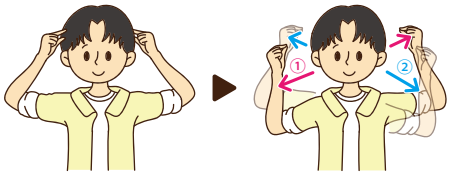
茨城県つくば市にある筑波技術大学は、聴覚または視覚に障がいがあることを入学条件とする国内で唯一の大学です。

聴覚に障がいのある学生の授業では、口話、手話、筆記、資料配布などの情報保障が行われており、個々の学力に細かく対応する少人数教育を特徴としています。社会で活躍できる人材の育成のため、専門知識や情報技術を習得できる教育が行われ、教育職員免許状や国家試験受験資格の取得ができます。

やってみよう！～身近な言葉の手話～

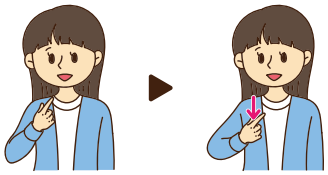
普段使う言葉を手話でやってみましょう。　※QRコードを読み込んで、手話の動画を見ることもできます。

大学



両手の親指と人差し指を頭の左右に置いて、開いた2指を閉じながら前後に引き、前後を変えて同じ動きを繰り返す。

資格



右手の親指と人差し指を開いて、その指先を右肩に当て、そのまま下におろす。

問い合わせ先　福祉支援課障がい福祉担当　☎(584)1111㈹　F(584)1154

奴国の丘歴史資料館名誉館長の

市報DE講義

武末 純一（たけすえ じゅんいち） 名誉館長
（福岡大学名誉教授）

問い合わせ先　文化財課整備活用担当　☎(501)1144　F(573)1077

1月17日㈯から、奴国の丘歴史資料館で令和7年度民俗企画展「春日の昭和100年史」を開催します（23ページ参照）。これにちなんで、太平洋戦争と春日市の歴史について紹介します。

昭和時代は、私たちの生活が大きく変化した時代です。特に戦前と戦後では、生活だけでなく、町の風景も変化しました。

現在の陸上自衛隊福岡駐屯地や航空自衛隊春日基地がある場所は、実は太平洋戦争の軍需工場の一部でした。

春日村は米作を中心とする農村地域で、住民の9割以上は農家でした。第二次世界大戦が始まると、昭和16年には春日原競馬場付近一帯（現在の春日公園周辺）に小倉陸軍造兵廠（ぞうへいしょう）春日製造所が設置されます。また、現在のJR南福岡駅～陸上自衛隊福岡駐屯地周辺には、九州飛行機㈱や九州兵器㈱などの軍需工業地が設けられ、農村でありながらも、これらに携わる住民が多くなりました。

昭和20年の終戦後、連合軍は春日村の軍需工場を接収し、板付飛行場のアネクス（付属基地）にします。これらの施設は板付基地と総称され、朝鮮戦争でも使用されました。

昭和32年には基地内の米兵が6000人を超え、春日原周辺には、米軍やその家族の居住地域「春日原ベース」があり、米兵の増加でベース外にも「オフベースハウス」（通称「米軍ハウス」）が建てられます。米軍が「博多どんたく」に参加し、ベース内での地元の学生とのスポーツ親善試合など交流も盛んで、アメリカの文化がいち早く導入されました。

昭和38年に、米軍は板付基地の部隊の移転・撤退を発表し、昭和47年に基地は返還されました。返還後に残った米軍ハウスも、今ではほぼ無くなりましたが、これらも春日の歴史の一部です。「春日ベース・ハウスの会」は、米軍基地があった頃のまちの記憶を語り継ぎ、保存・活用に向けて活動しています。歴史への関わり方には、さまざまなアプローチがあるのです。